

平成 24 年 1 月 4 日

各 位

株式会社大和証券グループ本社

2012 年 日比野社長 新春ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年、2011 年は、稀に見る困難が国内外の社会・経済を直撃した年でした。国内では東日本大震災、その後の原発事故・放射能問題、電力問題や長引く円高、海外でも欧州債務危機や米国債格下げ等の所謂“ソブリン・ショック”が起こり、国内外の経済は不透明感を残したまま、今も予断を許さない状況が続いています。そのような中、当社グループは、今年度から、「強靱な経営基盤の確立」と「アジアを代表する証券グループへの躍進」という 2 つの経営基本方針を掲げ、この難しい事業環境を乗り切るための各種施策に取り組んできました。

業績については、全体的に苦戦を強いられたものの、フォーカスを強めた株式投信の販売を中心に、リテール部門及びアセットマネジメント部門が健闘し、両部門については今年度上期において増収増益を確保しました。5 月に営業開始した大和ネクスト銀行についても、半年足らずで預金残高が 1 兆円を突破しました。これにより、「貯蓄から投資」への流れをグループ内でシームレスに創出する画期的なビジネスモデルの構築に向け、大変意味のある大きな一歩が踏み出せました。また、本社機能集約を初め、経営効率向上、コスト削減の取り組みも、当初想定以上のペースで進捗しています。これらの経営基盤の強化に向けた取り組みは、市場低迷という逆風が吹き荒れる中でも、確実に芽が育ってきています。

今年、2012 年は、大和証券グループにとって創業 110 周年の節目の年です。

既に 1 月 1 日付で大和証券キャピタル・マーケット傘下にあった海外子会社の大和証券グループ本社傘下への移管を終えましたが、4 月には大和証券と大和証券キャピタル・マーケットが統合し、いよいよ“新”大和証券が誕生します。“新”大和証券への移行は、当社グループが目指す「強靱な経営基盤の確立」のために、必要不可欠な極めて重要なステップになります。「効率的な経営体制」と「強力な営業体制」を備えた、いわば完全体の新たな総合証券会社の誕生は、当社グループの収支構造の改善に寄与すると共に、我が国証券市場全体にもインパクトを与え、その活性化に大きく寄与するものと確信しています。

大和証券グループは、今後も商品・サービスを今迄以上に充実させ、お客様のご期待に沿えるよう尽力してまいります。

本年も大和証券グループをどうぞよろしくお願い申し上げます。

以 上